

戮力協心

令和7年度 朝礼 (6/2) 校長の話

おはようございます。

今日の四字熟語は「戮力協心（りくりよくきょうしん）」です。戮力とは全員の力を一つにすること、協心とは心を乱さず互いに調和することを意味します。

体育祭が近づきました。どのクラスもこの「戮力協心」を掲げて頑張っていると思います。特に団体競技は全員の力と心が見事にかさなったとき、成功への道が開けます。「一人はみんなのために、みんなは一人のために」という言葉が物語っているように、一人一人は個性の違う人格をもっている一方で、その一人一人の力が合わさることで、思ってもみなかった新しい力が自分の中にわきあがります。皆さんは今、それを体験しているところだと思います。例えば大縄跳びで、これまでになかった回数を跳べた瞬間、新鮮な気持ちがこみあげてきて自分のレベルがワンランク上がったような気持ちになったことはないでしょうか。これが集団の力です。どうか、その体験を大切にしてください。

さて、一人一人の力を同時にアップさせるのが集団の力だとすれば、逆に一人の人をどん底に突き落とす集団の力もあります。いじめがそれに当たります。たとえば誰かが SNS で誰かをターゲットにして悪口を言ったとしましょう。本来はそんなことをする友達を止めるべきなのに、一緒に同調して悪口を言い合ってしまったらどうなるでしょう。言われた人はつらい、つらい気持ちになって何日も何日も思い悩みます。これは絶対に許されることではありません。皆さんも知っている通り今から十年前、「いじめ防止対策推進法」が成立し、いじめは国をあげて、法律で監視する行為となっています。

皆さんの周りで、いじめで苦しんでいる友達はいないでしょうか。あるいは深く考えず、思いやりの心を忘れて、平気で誰かを傷つけている人はいないでしょうか。八中で目指しているのは「心理的安全性」です。「心理的安全性」とは、その集団にいる誰もが恥をかかされたり、馬鹿にされたり、差別されたり、罰を受けたり、無視されたりすることがなく、自分らしい意見を言い合える、安心できる状態のことを言います。ですから、いじめは絶対にあってはなりません。

いじめのない学校にするために、皆さんにしてほしい大事なポイントを4つ紹介します。

第一に、多様性を認めることです。人は皆、それぞれがそれぞれの人格をもっています。いろんな人がいるからいいのです。それを八中生みんなで認めることが、いじめのない学校づくりの第一歩です。

第二に、対等で自由な人間関係を作ることです。同じメンバーでいるだけでなく、いろんな人たちと交流を結び、互いを認める関係づくりをしていきましょう。自分のやろうとすることが認められ、応援してもらっていると感じて初めて、学校が居場所であると思えるようになります。

第三に、「どうせ自分なんて」と思わないことです。そのためには、共同生活のなかで自分は誰かに役立っていると実感することが大切です。学級の係活動、委員会活動などはみんなに役立つ仕事です。ボランティア活動はまさに人に役立つ活動です。

最後の第四に、「困った、助けて」と言える環境を作ることです。困ったとき、それを隠してしまうの

ではなく、弱音を吐いたり、人に頼ったりすることができる雰囲気大切にしてください。皆さんはまだ成長過程にある未成年です。困って人に甘えることがあっても別に不思議ではありません。友達に相談するのもいいでしょう。信頼できる大人に相談するのもいいでしょう。とにかく困ったことがあったら人に頼ってみてください。そういう雰囲気を大切にできる学校にしていきたいと思います。

さて、4つ紹介しましたが、覚えましたか。第一に「多様性を認めること」、第二に「対等で自由な人間関係を作ること」、第三に「どうせ自分なんてと思わず人の役に立つこと」、第四に「困ったときはいつでも人に頼れる雰囲気を作ること」です。

ここいる全員がこのことを守れば、八中はさらにいい学校になるはずです。居心地向上プロジェクトも、中心となるメンバーが十人近く集まっていよいよ動き始めます。実は、このプロジェクトを提唱したヴィクトラム・パテル教授が7月2日、八中にいらっしゃる計画が立てられています。ヴィクトラム・パテル教授はインドの方で、ハーバード大学医学部の教授を務め、十年前に「世界で最も影響力のある100人」に選ばれるほど大変立派な方です。そんな素晴らしい方が八中に来ていただけるというのは今からとても楽しみです。そんな方に全面的に応援していただき、八中がさらに居心地のよい学校になれるよう、まさに「戮力協心」の気持ちをもって、みんなで頑張っていきたいと思います。

先生の話は以上です。